

## <持たない経営と持ちたい経営>

自己資本対固定資産比率(X10) = 自己資本 / 固定資産 × 100

この指標は数値が大きいほど、評点がプラスとなります。(上限値 529.3 下限値 -76.5)

借入金への依存度が高い日本の企業においては、この上限値は厳しい数値です。自己資本1億円の会社の固定資産およそ1,889万円、自己資本1,000万円の会社の固定資産およそ188万円、これが上限値の突きつけている数字です。「固定資産を持つな」と言っているようなものです。

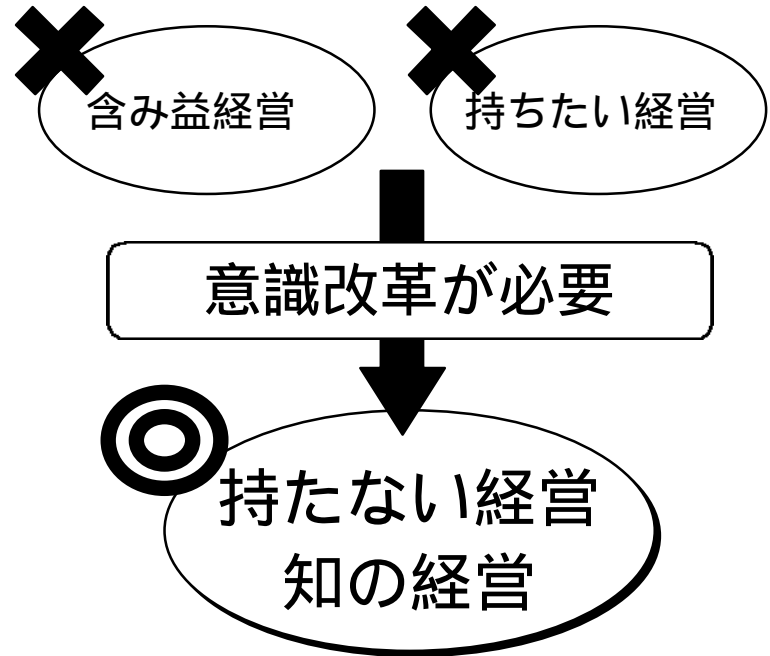
しかし、この「持たない経営」は、最近はやりの経営手法です。日本企業は長らく右上がりの経済を前提とした「含み益の経営」をしていましたが、バブル経済の崩壊による土地価格や株価の下落を経験し、「含み益経営」の危うさを実感しました。そこで、本業の儲けを資産価値の目減りによって失いたくないという気持ちは、多大な設備投資を回避する方向に進んでいます。具体的には、固定資産の流動化や大型投資の必要な作業の外注化によって設備投資を極力抑えて資産価値下落に備えているのです。そこには、設備と労働力の組合せによる付加価値の創造から「知の経営」による付加価値の創造への意識の転換がみられるのです。

この「持たない経営」への転換こそが経審対策の第一歩なのですが、中小建設会社では、「持ちたい経営」というやっかいなものが「持たない経営」への転換をはばんでいるのです。

「持ちたい経営」とは、資産を保有したいという人間本来の欲望の現れです。経営者が会社を使って自己の欲望の実現を図るのです。現在のように不況期にはそうした傾向は影をひそめていますが、好景気になるとその傾向が強まります。ゴルフ会員権やリゾートクラブ会員権、高級車や高額な福利厚生施設の購入などがその例ではないでしょうか。また、建設会社の特性から立派な社屋を建てる傾向にあります。自社の建物が展示用の建物であるような感覚になると「持ちたい経営」とがミックスするのでしょう。身の丈にあった投資をしないとあとで苦しむこととなります。

「経審」は「含み益経営」「持ちたい経営」にノーを突きつけています。自分自身を今一度見直してはいかがでしょうか。

WISENET編集部 松村 清(税理士)



### <耳より情報>

11月26日 日刊建設工業新聞 より抜粋

#### 建設省 経審申請時の技術者名簿 チェックシステム開発

建設省は不良不適格業者排除の一環として、技術者名簿の真偽をチェックするシステムの開発に着手する。開発経費として約9100万円を投入し、2001年7月までに本格適用の予定。

これまでは、名義を借りて技術者数を水増ししていることを見逃してしまいう危険性が内在していた。

このシステムは企業が提出した技術者名簿を電子化し、建設業技術者センターのデータベースに登録されている監理技術者情報と適合するシステム。工事経歴書に記載されている専任技術者情報も同システムでチェックし、虚偽申請がないか適正に審査する。

将来的には技術力評価だけでなく、経審の審査事務自体を電子化し、経営状況分析の虚偽データや完成工事高の水増しなどについてもコンピュータによる厳正なチェックを行なう予定。

「Wisdom99 建設業許可申請書類作成システム」新バージョン完成しました。  
 ご注文受付順の都道府県対応版から、順次発送を開始しております。

### 資料請求

注文希望 (注文用紙を送付します。)

\*すでにご注文をいただいたお客様にもこのFAXは届いております。

資料請求・ご注文は上欄に必要事項を記入の上、  
 FAXにて当社までご返送下さい。

**FAX.0269-65-4745**

下記にご連絡先をご記入下さい。ユーザー様で前回登録時と変更のない場合には、貴社名と担当者名、TELのみをご記入下さい。

貴社名	
ご担当者様	ご役職・部署名
ご住所(商品送付先) 〒	
TEL	FAX
e-mail	決算月 月